

# 緑井歴史物語

緑井歴史物語

みどりい はっしょう いど  
「緑井」の名の発祥といわれる井戸

きゅう さ とうちようがっぺい  
旧佐東町合併の歴史



緑井の由来となった井戸の一つ。上緑井幼稚園近くの石州街道沿いにあります



昭和32(1957)～42(1967)年までの佐東町役場は現在の上緑井バス停前にありました(写真は『想いでの佐東町』佐東地区まちづくり協議会、平成8年より掲載)

## 古代から今日まで変わらずに続く地名

緑井という地名は古代から現在まで続く全国でも珍しいケースです。平安時代につくられた日本最古の辞典『倭名類聚抄』の地名の部に、安芸国佐伯郡十二郷の一つとして「緑井」の名が出てきます。

この地名は、“緑豊かに土地を潤す井戸”から名付けられたと伝わっています。江戸時代の広島藩の書物『芸藩通志』には、「村の山の麓に古い井戸があり、三尺

(約90cm)四方で深さ二尺(約60cm)、清らかな水が湧く。干ばつでも枯れず、長雨でもあふれない不思議な井戸だ。この井戸の水があるから、緑井という名が付いたにちがいない」とあります。

緑井の名の発祥になったといわれる井戸は、宇那木神社の境内にある御水堂をはじめ、権現山山麓など地区内に何か所か残っています。

## みどりい やぎ かわうち 緑井、八木、川内の3つの村が合併

旧安佐郡佐東町は、戦後に町村合併が推進される中、昭和30(1955)年、緑井村・八木村・川内村の3つの村の合併で誕生しました。

「佐東町」という町名は、中世から江戸期にかけてこの地で600年間使われた「佐東郡」という郡名から採用されました。当時の町村合併で歴史的な背景を持つ名前

が選ばれた例は少なかったといえます。佐東町役場は旧緑井村役場に設置されました。それぞれの村が所有していた財産の大半は新しい町へ引き継がれましたが、権現山は元の村が所有する財産として据え置かれ、管理にあたる緑井財産区が設置されました。

その後、佐東町は昭和48(1973)年広島市と合併しました。

う な き じ ん じ ゃ  
宇那木神社



毎年10月下旬には秋季大祭が盛大に行われ、神楽などで賑わいます

ごんげんざん ふもと みどり い うじがみ\*1  
権現山の麓に建つ緑井地区の氏神さま

権現山の東南の麓にあり700年あまりの歴史があります。元々は宇那木八幡宮と呼ばれており、御祭神（神社に祀られている神さま）は帯仲津日子命、品陀和氣命、息長帯日売命の八幡三神です。安芸国守護で銀山城主の武田氏が、武田玄玄の守護神「富士御室浅間神社」の神さまを分けてお迎えし、銀山城の祈禱所として建てられました。境内には御神木のつが 榎の木があり、鎮守の森は環境省の特定植物群落に指定されています。拝殿右奥の登山道を登ると、

う な き や ま こ ふ ん  
宇那木山2号古墳があります。境内に八敷地区（緑井7丁目）の守り神「山王神社」と、緑井の名の由来の井戸の一つ「御水堂」があります。御水堂の井戸は武田氏が宇那木神社に水をお供えするために掘ったと伝えられてきました。水の神さま・弥都波能売神が祀られています。

- \*1 氏神：集落全体で祀る神道の神さま
- \*2 祈禱所：祈禱をするために指定し保護したお寺のこと
- \*3 御神木：神社の境内にあって神聖なものとして崇められる
- \*4 鎮守の森：神社の境内とその周りにある樹林
- \*5 特定植物群落：学術上重要だったり、保護しないとなくなってしまう貴重な植物のあつまり、森林など

ごんげんざん こ ふ ん  
権現山古墳



当時この地域の人々を指導し、尊敬された人が葬られていたと思われます

はこしきせつかん\*6  
遊歩道から見られる古墳時代の箱式石棺

東廻り遊歩道沿いに「権現山古墳」があります。山頂から約500m付近の自然展望台の近くで、そばに駐車場もあります。

古墳は組み合わせ式の箱式石棺が2基、直交する向きに並んでいます。副葬品は発見されていませんが、遅くとも6世紀初めまで、恐らく古墳時代前半までのものではないかといわれています。1号古墳は全長162cm、幅は東側48cm、西側30cmで、高さは50cm、地山を掘り込み板状の花崗岩を組んで築かれています。その少し下にある2号古墳は元は1

号古墳と同規模の大きさだったと考えられています。石棺の北東側から90cmの長さのみ残っています。

緑井から八木にかけては古墳が多数あり、権現山周辺ではこのほかに、鏡の破片などが確認された神宮山1号古墳、画文帯神獸鏡が出土した宇那木山2号古墳などがあります。

- \*6 箱式石棺：板石を箱状に組み合わせた石棺で縄文（じょうもん）時代～古墳時代に用いられた
- \*7 直交：2つの線や面が直角に交わること
- \*8 副葬品：亡くなった人の棺に入れる品
- \*9 地山：山の中で、加工をしない天然のままの状態にある地盤のこと

いし や じんじゃ  
石屋神社



「石屋神社」の扁額を掲げた石の鳥居の向こうに社殿が見えます



「左三つ巴」の神紋



手水鉢

むなかたさんじょしん おうじんてんのう まつ  
海運の神・宗像三女神と応神天皇を祀る

緑井浄水場近くの住宅地に建ち、毎年10月の秋祭りには、境内で地元いしや かぐらの岩谷神楽が奉納されています。

御祭神は宗像三女神と応神天皇とされます。宗像三女神とは厳島神社の御祭神と同じ、市杵島比売・多岐津比売・多紀理比売のことで、航海の神として知られています。応神天皇とは武運の神、品陀和気命のことで、八幡神です。丹塗りの社殿には八幡神の神紋、「左三つ巴」が掲げられています。大正時代に奉納された石鳥居をくぐると、境内に入ってすぐ右手に

自然石に扇の形を彫り込んだ見事な手水鉢があります。

創建年代は不明ですが、『芸藩通志』によると、平安時代に安芸国あきのくにの神社を紹介した『楽音寺神明帳』に出てくる「佐東郡四位石(岩)屋明神」ではないかとされています。もし「石屋明神」が石屋神社のことだとすると、とても古い歴史を持っていることになります。

\*10 奉納：神仏の前で音楽や芸能、競技などを演じること

\*11 丹塗り：昔ながらの材料を使った伝統的な塗装方法の一つで、丹(に)や朱(あか)(赤色の顔料)で塗ること

や ぎ ようすい  
八木用水



太田川発電所からの水を運び、田畑を潤しています

農民の苦境を救った農業用水路

江戸時代中期、明和5(1768)年、桑原卯之助という大工によって作られた農業用の水路で、元は「定用水」と呼ばれていました。太田川右岸のおおたがわ一帯、佐東・安古市・祇園は農耕用水に恵まれず、たびたび日照りの被害を受けて農民は苦しんでいました。これを憂いた卯之助は土木の知識や測量技術を活かし、土地の高低を測量しました。そして、八木村の十歩一から水を取り入れる用水路を計画し、工事を開始しました。完成し

た当日、水が豊かにどンドン流れ込むのを見た農民も役人も卯之助と一緒に泣いて喜びました。卯之助はその功績で苗字帯刀御免を与えられました。

大正8(1919)年の大洪水で取水口は1.5km上流の鳴に移されましたが、今も清らかな水が一部の田畑を潤しています。八木の細野神社の石段下に卯之助の功績をたたえた「定用水碑」が建っています。

\*12 苗字帯刀御免：江戸時代の武士の特権で、姓を名乗り、太刀を腰に差すことが、平民の身分でも特例として許されたこと

## 平成26年8月豪雨災害



毘沙門堂の本堂前で土砂などの撤去作業（平成26年9月）

### 地元の人とボランティアが力を合わせて立ち上がる

平成26（2014）年8月20日未明、安佐南区・安佐北区を中心に集中的な大雨が襲い、土石流によって77名の尊い命が奪われました。緑井地区でも16名が亡くなりました。

権現山でも鳥越川や岩谷川など、土石流が起きた溪流で堰堤工事が実施され、毘沙門台1丁目の急傾斜地は砂防工事が行われました。また、平成27（2015）年1月に土砂災害防止法が改正され、土砂災害警戒情報に基づく迅速な避難勧告発令など情報伝達の

分野の整備も進みました。

毘沙門堂は境内と本堂に土砂が流入し、地元の人々と県内外からの多くのボランティアが協働して復旧作業を行いました。権現山から流れて来た岩石を復旧に活かしたいという思いから、その岩石を使って見事な石垣へ生まれ変わらせました。こうして平成28（2016）年の初寅祭には復旧した毘沙門堂で再建記念法要が盛大に行われました。

\*13 堰堤：河川や渓谷の水流、土砂をせきとめるために、石やコンクリートなどで築いた堤防

\*14 砂防：土砂災害を防止・軽減するための対策

## 懐かしの緑井

あの頃を覚えていますか？

私たち緑井地区の思い出を写真で振り返ってみましょう。「権現山憩の森」の完成や緑井小学校創立百周年など、さまざまな出来事がありました。

①



緑井公民館落成行事  
（昭和29〈1954〉年9月 緑井小学校にて）

②



可部線から緑井を望む  
（昭和30〈1955〉年頃現在の緑井六丁目）

③



東京オリンピック聖火リレー記念  
（旧佐東町役場にて・昭和39〈1964〉年9月）

④



石屋神社（岩谷）から望む  
（昭和44〈1969〉年6月）

⑤



権現山憩の森が完成した年の  
巣箱掛け  
（昭和46〈1971〉年3月）

⑥



緑井小学校（昭和50〈1975〉年11月  
昭和42（1967）年現在の位置へ。  
昭和50年に創立百周年を迎えた

\*写真①③⑥は『想いで佐東町』佐東地区まちづくり協議会、平成8年より掲載

②④⑤は『想いで佐東町2』佐東地区まちづくり協議会、平成11年より掲載